

第3章 茨城の将来像

「新しい茨城」への挑戦を継続していくためには、目指すべき「新しい茨城」の姿について県民の皆さんとの共有を一層図り、そこに向けて、県民の皆さんと一丸となった更なる取組が必要です。

ここでは、そのような考えのもと、総合計画における『基本理念』及び『茨城のグランドデザイン』を示します。

第1項 基本理念

基本理念

『活力があり、県民が日本一幸せな県』

- 人口減少・超高齢社会を迎える中、ポストコロナをしっかりと見据え、県民一人ひとりが本県の輝く未来を信じ、「茨城に住みたい、住み続けたい」人が大いに増えるような、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に挑戦します。



時代は今、人口減少や超高齢化をはじめ、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大、気候変動に伴う災害の激甚化、国際情勢の変化に伴う競争環境の激化、デジタル技術の劇的な進歩など、前例主義が通用しない、予測困難な「非連続の時代」を迎えています。

こうした時代の変化に的確に対応し、これからの茨城を更に切り拓いていくためには、本県の持つポテンシャルを最大限に活かし、茨城のあるべき姿を見据え、これまでの常識にとらわれず、新たな発想で果敢に挑戦していかなければなりません。

県民の皆さんが、未来に希望を持つことができ、自由で新しい発想のもと、自身のかなえたい夢に向かって挑戦を続けられることが、県民が日本一幸せな県につながっていくものと考えます。

このような考えのもと、人口減少・超高齢社会を迎える中、ポストコロナをしっかりと見据え、県民一人ひとりが本県の輝く未来を信じ、「茨城に住みたい、住み続けたい」人が大いに増えるような、『活力があり、県民が日本一幸せな県』の実現を基本理念とし、県民の皆さんとともに「新しい茨城」づくりに挑戦していきます。

第2項 茨城のグランドデザイン（2050年頃）

デジタル技術の劇的な進歩や人口減少の進展などにより、予測困難な非連続の時代を迎えている中、2050年頃の本県を取り巻く環境は現在と大きく変化しているでしょう。

しかし、県民の皆さんとともに様々なチャレンジに果敢に取り組んだ茨城県は、そうした社会の大きな変化にも適応し、県民の皆さんが、自身のかなえたい夢に向かって挑戦を続けられる、『活力があり、県民が日本一幸せな県』となり、日本、ひいては世界から、「茨城に住みたい、住み続けたい」人が大いに増えている、選ばれる茨城となっています。

（1）茨城の将来像

<強い“産業”>

○強みの磨き上げ・競争力の強化と、未来を切り拓く発展

- ・科学技術・ものづくり産業・農業といった本県の強みが一層磨き上げられ、AIやIoTなどの先端技術が浸透し、エコシステムにより新たなイノベーションやベンチャー企業が次々に生まれるなど、本県産業の競争力が強化されるとともに、カーボンニュートラルなど未来を切り拓く発展を果たしています。

○茨城ブランドの確立と、世界における茨城の存在感の高まり

- ・様々な地域資源を活かした魅力ある観光や高付加価値な県産品などにより茨城ブランドが確立されるとともに、茨城の魅力が国内外に広く発信され、世界中で茨城の存在感が高まっています。



<夢・希望にあふれる“人”>

○グローバル社会で活躍する“茨城そだち”の人財

- ・自由で新しい発想のもと、自身のかなえたい夢に向かって挑戦してきた人財が、グローバル社会の様々な分野で活躍しています。

○郷土に愛着と誇りを持ち、住民自治を实践する人財

- ・茨城に愛着と誇りを持ち、地域の様々な課題を自ら解決する豊富な知識とコミュニケーション能力を身に付けた人財が、住民自治を实践し、地域をしっかりと支えています。

○ダイバーシティ社会の形成

- ・国籍、民族、性別、年齢、経済的条件などに関わらず一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮できる社会、多様性が受容されるダイバーシティ社会が形成されています。

<豊かな“暮らし”>

○地域社会と革新的技術で支える安心安全な暮らし

- ・人口減少が進展する中でも、地域社会全体で地域の医療・福祉を支え、災害時にも助け合い、万が一のときにもセーフティネットで守られるなど、誰もが安心して暮らせる社会が形成されています。
- ・ICTやロボットによる質の高い医療・福祉サービスが誰でも受けられ、AIやビッグデータが激甚化する災害から被害を未然に防止するなど、革新的技術が安心安全な暮らしを支えています。

○絆の育みと、持続可能で温かく充実した暮らし

- ・県民や市町村、企業、大学、NPOなど多様な主体との連携により、日常生活の利便性の確保や伝統文化の伝承など、地域社会を維持する仕組みや強固な絆が育まれています。
- ・豊かな自然環境の中、若者を惹きつける魅力あるまちづくりが進み、持続可能で温かく充実した暮らしが営まれていきます。



(2) 県土を支える社会資本(インフラストラクチャー)

2050年には社会資本の整備が進み、県内外との対流・連携が一層活発化することにより、誰もが『夢・希望』にあふれる生活を送る基盤が整備されています。

<道路・鉄道・公共交通機関等>

○広域交流と地域間連携を支えるネットワークの構築

- ・東関東自動車道水戸線の開通や首都圏中央連絡自動車道の4車線化など高規格幹線道路網が整備され、これらを補完する地域高規格道路や主要な幹線道路の整備が進むとともに、公共交通機関や次世代モビリティの発達など、広域交流と地域間連携を支えるネットワークが構築されています。



○三大都市圏等とのアクセス性向上と、県内への波及

- ・東京方面との鉄道等のアクセス強化により、リニア中央新幹線とのアクセス性が高まり、大阪・名古屋といった三大都市圏等とのネットワークが飛躍的に向上し、経済・学術・文化など様々な分野の交流が活発になることで県内にその効果が広く波及し、県全体の発展を支えるとともに、有事の際の東京の都市機能のバックアップ等の備えが整っています。



<港湾・空港>

○産業を支え国内外と夢をつなぐ首都圏のニューゲートウェイ

- ・北関東の玄関口の茨城港と、首都圏東の玄関口の鹿島港の両港湾では、国内外様々な地域との航路が充実し、コンテナやバルク貨物などの国際物流拠点等として発展しているとともに、クルーズ船寄港やマリンリゾートなどの観光拠点として賑わいをみせています。
- ・また、両港湾を含む臨海部では、再生可能エネルギーや新エネルギー(水素・アンモニア等)のサプライチェーンの構築、エネルギー構造の抜本的転換に必要な技術の開発や設備投資により、新産業の創出が進みカーボンニュートラル産業拠点として発展しています。
- ・茨城空港は、国内だけでなくアジア諸国など海外との路線が充実するとともに、空港アクセスの向上により、北関東地域、さらには首都圏全体としての空のゲートウェイとして賑わいをみせています。



<暮らしを支える社会資本>

○県民の命と財産を守る社会資本の整備・長寿命化

- ・県民の命と財産を守り、安心安全な暮らしを支える社会資本の防災・減災対策が進むとともに、計画的なメンテナンスにより、施設の長寿命化が図られ、世代を超えて共有する「資産」として適切な維持・活用がなされています。

○ これらの陸・海・空の交通ネットワークの整備、維持・活用により、首都圏をはじめ国内外との時間的距離が短縮され、地理的優位性が一層強化されるとともに、県内の多様な個性を持つ広範な地域が相互に連携し、人・モノ・情報が活発に行き交う対流により、本県の強みである科学技術・ものづくり・農業など様々な分野でイノベーションが創出され、ITなどの成長産業の集積が進み、高付加価値な産業体質への変換が図られ、本県の持続可能な成長を支えています。

2050年頃の 茨城の姿

	高規格幹線道路
	広域幹線道
	主な幹線道路
	鉄道
	重要港湾・空港
	主なサイクリングロード
	茨城県北ロングトレイル
	構想路線・鉄道

首都機能移転候補地
(栃木・福島地域)

いわき

二地域居住・
定住圏リング

圏央物流リング
(ゴールデンリング)

関越・上信越方面

宇都宮

前橋・高崎方面

北関東新産業東西軸

小山

古河

さいたま
新都心

リニア中央新幹線

名古屋

大阪

東京

スーパー・
メガリージョン

成田

成田国際空港

